

# 「プリマダム」というドラマにおいて反映される日本の女性の役目

## 序論

筆者が「プリマダム」というドラマを分析する理由は「明治維新」から始まった近代化によって、日本の女性も社会生活において変化を受けた。近代化の流れにより、結構変わった伝統的な価値観が多少ある。それは、「プリマダム」というドラマにおいて反映される日本の主婦の役目及び家父長制の性質を持つ日本社会がどのように女性を見ることにおいて起こった変化がある。

この研究に分析されている問題は女の役目及び現代に発生した変化のみに限定されている。この研究の目的は「プリマダム」というドラマにより、日本においての主婦の役目がどのようなものか、及び現代の社会において主婦がどのように見られるかということを知るためである。

## 本論

丁寧で、忠実で、結婚したら、四六時中に家族に仕える女性としてのイメージを持つ日本の女性の役目は明治時代の日本に行われ、発展していた考えがあることに関わっている。それは、「良妻賢母」は逐語的に良い妻であり、賢明な母という意味を持つ。

「良妻賢母」は女を能率的に家庭を管理すること、年寄り及び病気な家族のものを世話をすること及び子供を良く育つことにおける苦勞で国のために貢献を与えることができる良い妻及び賢明な母になるようにする目的で明治時代の政府により実施された考えであった。

時間が経つに従い、女性の役目は発達し始めた。例えば、女性が働くことができること及び女性のために教育程度の上昇である。しかし、この「良妻賢母」の考えは日本の女性の役目においてよく現れる。全ての年齢の女性はまだ自分の家及び自分の家族を主要な優先として思う。もし家の外に活動があるなら、彼女らは全てがバランスであることにしなければならない。

高い程度の教育を受けた日本の女性は家の外の仕事という面白い機会があっても、ほとんど母あるいは専任の妻として働くことを決めた。日本の女性も家庭の管理を独占する。彼女らは他の家族の一員と家庭の管理を分担しない。また、効果的な主婦は家事を終わらせてから、常にかなり多く残った時間を持っている。

日本の女性の最優先は家族及び家庭の人生であり、家庭を管理することが彼女らにとって請求である。もし彼女らは家の外において働かなければならない場合、ほとんどの日本の女性は働く時間と家族のための世話をする時間を平衡にする。もし行っている家の外においての仕事や活動が彼女らの時間をかけて始める場合、その仕事や活動は家族にとって考えるべきものとなる。従って、このドラマにおいての主人公である「万田佳奈」はできるだけ家事を整理したり、良いパートタイマーとして働いたり、バレーを練習したりすることで時間のやり繰りが良くなるように頑張っている。

「良妻賢母」の考えにおいては女性は結婚するときに主人に専念し、うやうやしく仕え、また主人に常に従うように教えられる。近代の主婦にとっても、この明治時代においてあった役目をまだ行わなければならないが、明治時代で行われたように行わなくてもいいと思われる。このことは佳奈の主人の「万田高太郎」が佳奈に自分と同僚の者の食事のために家において夕飯を用意させた場面から見られるものである。佳奈はアルバイトをしなければならないし、バ

レーの練習もしたいが、主人が頼んだのため、佳奈はしかたなくバレーの練習の時間を犠牲にしなければならないことになる。

「高太郎」佳奈の主人は家父長制の性質を持つ日本社会において、主人たちはある妻がうやうやしく仕えなければならないし、主婦としていつも自分の命令に従うと思っている。したがって、佳奈は妻として義務に集中しなければならない。それは、家事の整理すること及びあまり必要のない義務を能率的に辞めることである。このようなことのため、高太郎はバレーの練習に真剣である佳奈を反対した。高太郎は佳奈が使う暇な時間が佳奈の主婦及び妻としての役目の邪魔になると心配するためである。

「舞」及び「結」は「万田家」の娘たちとしてある母の義務は全ての家事をすることであることが分かっている。したがって、少女になっても、彼女らはまだ佳奈に学校に必要なものを買わせた。実際、彼女らは自分で買うこともできるはずと思われる。さらに、彼女らは佳奈が夕飯を作るときに困っても、佳奈を手伝わない。

## 結論

「プリマダム」というドラマにおいての主人公と共演者に反映される主婦の役目についての分析の結果の結論は「このドラマにより反映される日本の主婦の役目は家族と家の中の生活を優先すること、家庭の管理は彼女らにとって請求であること、及び彼女らが家の外に働かなければならない場合、彼女らのほとんどは働く時間と家族の世話をする時間を平行にすることである。また、家の外の仕事が彼女らの時間をかける場合、その仕事が家族にとって考えるべきものとなる。このようなことが佳奈がバレー練習をしたり、できるだけ家事を整理したり、

またパートタイマーとして良く働いたりするように自分の時間のやり繰りをよく整理し、頑張っている多少の場面から見られる。

# DAFTAR ISI

Kata Pengantar	i
Daftar Isi	iv
Bab I Pendahuluan	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Pembatasan Masalah	5
1.3 Tujuan penelitian	5
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	5
1.5 Organisasi Penulisan	7
Bab II Perempuan Jepang	8
2.1 Wanita Jepang Pada Zaman Meiji	8
2.2 Pengertian Ryou Sai Kenbo	10
2.3 Wanita Jepang pada Zaman Modern	6
Bab III Analisis Drama ‘Ballet Dancer Primadam’	14
3.1 Kana Manda	14
3.2 Koutaro Manda	24
3.3 Mai Manda	31
3.4 Yui Manda	33
Bab IV Kesimpulan	36
Sinopsis	V
Daftar Pustaka	X
Riwayat Hidup Penulis	XI